

2022 年度中部圏支部 CD3 抗体免疫染色サーベイ 1 次サーベイ結果報告

◎川本 洋平¹⁾、稲垣 裕介²⁾、舩戸 連嗣³⁾、林 直樹⁴⁾、吉本 尚子²⁾、中村 広基⁵⁾、藤田 智洋⁶⁾、柚木 浩良¹⁾
公立陶生病院¹⁾、公立西知多総合病院²⁾、国立大学法人 名古屋大学医学部附属病院³⁾、医療法人 豊田会 刈谷豊田総合病院⁴⁾、
西尾市民病院⁵⁾、小牧市民病院⁶⁾

【はじめに】

免疫組織化学染色(以下、免疫染色)は、組織型確定や患者予後の予測、コンパニオン診断など昨今の病理診断において必要不可欠となっている。日本臨床衛生検査技師会 中部圏支部は 6 県で構成され、毎年免疫染色サーベイを実施し、免疫染色における施設間差の減少に取り組んでいる。今回、2022 年度に実施した CD3 抗体免疫染色サーベイにおける 1 次サーベイ結果について報告する。

【実施要領】

適切に処理された 3 種類の組織(試料 1 ; 血管免疫芽球性 T 細胞性リンパ腫、試料 2 ; びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫、試料 3 ; 正常リンパ節)が入った FFPE ブロックを作製し、スマートセクション(サクラファインテックジャパン株式会社)を使用して厚さ 2 μ m で薄切し未染色標本作製した。未染色標本 1 枚を参加施設に配布し、各施設で免疫染色を実施した。染色された標本と染色工程アンケートを回収し評価、集計を行った。

【染色評価方法】

愛知県免疫染色サーベイワーキンググループの臨床検査技師 8 名と病理医 3 名の合計 11 名により各施設の染色標本を評価した。評価は評価基準に基づき 4 段階(最適、良好、要努力、診断不適正)とし、要努力や診断不適正と評価された施設については 2 次サーベイを実施した。染色評価結果は報告書にまとめ参加施設に送付し、集計結果については中部圏支部病理細胞検査研修会にて報告した。

【結果・考察】

参加施設は 66 施設(愛知県 22 施設、岐阜県 9 施設、静岡県 12 施設、三重県 5 施設、富山県 12 施設、石川県 6 施設)であった。染色評価結果は、最適が 18 施設(27%)、良好が 46 施設(70%)、要努力が 2 施設(3%)、診断不適正が 0 施設(0%)であった。参加 66 施設中 64 施設(97%)が最適、良好と評価され、診断に支障のない染色結果であった。自施設の染色が診断に適するか判断する手段として免疫染色サーベイは大変重要なものであり、今後も継続して実施していきたい。
連絡先 ; 0561-86-0567